

タットン会 通信

2009.

8.22

タットン会ホームページ **タットン会** と入力すると検索でき、会の趣旨や開催日時などが確認できます。また、「ボランティアセンター 046 (825) 0017」で、日程を確認することも出来ます。
 ※ 活動中などの写真掲載等をご遠慮なさる方は、事務局員にお申し出ください！(事務局は青パッチです)
 (7月の参加費は6,600円 寄付金は10,200円 計16,800円でした。ありがとうございました)

『**突発性難聴**』になってしまい7/16~25まで入院し、皆様には、ご心配ご迷惑をおかけ致し大変申し訳ございませんでした。



80回目タットン会の7/18に病室で「今頃タットン会が終わって、みんなどうしているかな？」なんて考えているときに、新潟にいるはずの通信チェックズのひとりタットン武さんが母上様と共に現れました。「エッ、なんでここに!？」驚いたの何のって!!! 会の様子も話してくださり…思わず目頭が熱くなってしまいました(多額の募金もいただきました!)

左耳が聞こえなくなりながらも入院を延ばし、ミニキャンプファイヤーのエールマスターをやっている時、耳に蓋をされてしまったような感じで「自分の声がみんなに届いているのか?」「みんなの声が聞こえない!」「コミュニケーションがとれない怖さと孤独感」等…を味わいました。こういう状態が「聞こえ」の不自自由な方々からうかがったことのある「あせり…!？」なのでしょうか?

耳の不自自由な方々はもっともっと生活しづらい日々を送っておられるのかと思うと、片耳が聞こえるだけでも有り難いことと思います。10日間の点滴治療を終えても「聞こえ」が戻ってこないのが、星状神経節ブロック注射を行い…今、「聞こえ」の数値は少～し上がってきています…。

以降に、チーフの青木君・副代表の鈴木孝芳さん・バドミントンリーダーの山本君からいただいた前回7月18の様子をお知らせ致します。

「今日は、9時前から受付が始まりました。早い時間に受け付けを済ませた方の中に、**市民活動サポートセンターの夏の活動体験を通した**5人の方がおられました。取材のために参加いただいたサポートセンター職員の大島さんにも受付を手伝っていただくほどでした。中学生の参加も嬉しかったです。

活動開始の時点では、チャレンジャーさんが少なめで、こじんまりとしたスタートでした。休み時間のころ、後半から参加の車いすチャレンジャー隊が到着し、卓球台は一気に満員となりました。今日のチーフは青木さん。活動の始めに、かずさんからのメッセージの紹介がありました。



結婚し新潟に行かれた**タットン武さん**こと海津(旧姓島田)武尚さん(通信チェック担当写真左)が、久しぶりに参加し楽しんで下さいました。新潟では若手といわれながら、運動不足気味の体を、今日は何年分もまとめて心も体も若返らせていました。タットン会が目指す、スポーツを通したふれあいそのものを感じました。

タットン会は保護者の方にとっても、とてもいいリフレッシュになると思います。得意不得意関係なくいっしょに体を動かしましょう。

今日の暑さはただものではありません。窓は全開ですが湿度が高くサウナのようなでした。休み時間に水分補給するように声かけすることの大切さを感じました。活動の終わりに、井上さんの県大会準優勝の報告に続いて、かずさんのメールメッセージ(閉会用までありました)を聞き、心の中でかずさんの早い回復を願いました。」

(鈴木)



「初めてのチーフでどうしたら良いかわからず、何とか孝さんと山さんに協力していただきながらも自分の無力さを感じると同時に、タットン会を無事終わることが出来たことに非常に安堵感を覚えます。出席していただいたボランティアの方々、本当にありがとうございます。」(青木)

自前の「タットン会」入りTシャツを作った山本さんには、驚かされました!!!

「バドミントンの方はみんな、球(シャトル)に当たるようになり、休憩のときも積極的にコートに行って一緒にやろう(^O^o)などと、チャレンジャーさんが声をかけてくれるので、初参加のボランティアの皆さんも楽しくやれている様子が見受けられました(o^v^o)。



ぼく自身もタットン会に参加して三年が経ちましたが、チャレンジャーさんやボランティアさんのみんなが笑顔で楽しくやれている様子がみられます。これからもみんなが笑顔でやれていけたらありがたいと思っています。」(山本《会終了後の事務局反省会から》)

休憩時間の使い方がうまくできるようになってきたので、(県大はトイレの位置も近く、混まない)ので **休憩時間を20分から15分に短縮**することにしました。5分の短縮で、反省会終了(全体の終了)を5分早くし、学生スタッフの午後の予定にも影響が少なくなるようにしていきたいと思ひます。

感想・参加者カード・気がついたこと!!! チャレンジャーさん24名参加

- ※1 卓球ラリーが42回、途中「休憩する?」と聞いたら「しない!」と強く言い返してきて、頼もしいな!と思いました。たまに早いボールを出すと、しっかり反応して打っていました。(S・Y様)
- ※2 …途中休憩しましたが「やろう!」という、やる気を持って頑張っていました。少し遠いボールもとれて良かったです。…体操では身体を揺らして、パラシュートではとても楽しく中に入って行って笑顔も見られました。(S・A様)
- ※3 初めて一緒にプレイしました。噂に聞いていたとおり、抜群に上手(全国大会出場)で容赦なく攻めてきます。本気で対戦したのですが、全く太刀打ちできませんでした…。(K様)
- ※4 バドミントン…スマッシュも狙って打とうとしたり、とても意欲的に取り組んでいました。サーブも上手になってよく入るようになってきました。楽しそうにしてくれて、ニコニコしてくれるのでこっちも楽しく出来ました。(S様)
- ※5 …対応の仕方が上手く出来ないために、集中させてあげられませんでした。ラケットにあてることは出来るし、興味を続けることが出来たらよかったです。人に関心が強いのは楽しいことで良いと思ひます。次回も楽しくやりましょう。(H様)

余暇活動

パート 39

近江商人の教えに、「三方よし」がある。これは、「買った人が喜ぶだけでなく、世間の役に立つような売り買いをし、それが自分の楽しみとなる。このような商いをしなさい」というもの。「買い手よし、世間よし、売り手よし」と表現される。タットン会は、まさにこのような状態にある。つまり、「チャレンジャーよし、世間よし、ボランティアよし」。

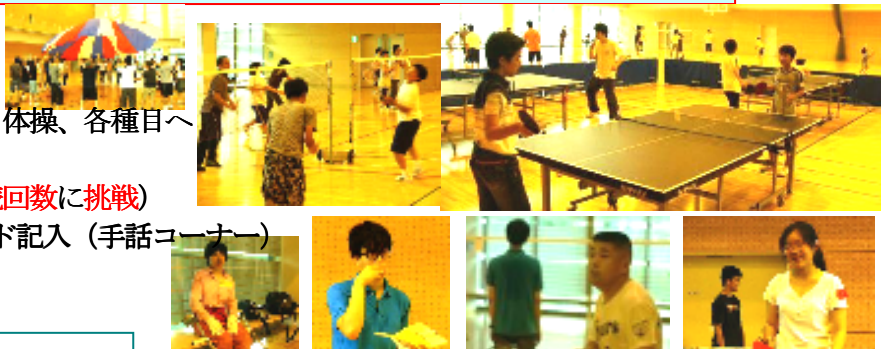
タットン会通信76号で阿見さんは、参加者が輝いている姿を「結構楽しんで見ている」と書いた。また、同77号で野田さんは、ボランティア活動が「自分の居場所である」と明言した。「してあげている」という気持ちを、彼女たちがいささかでも持っていたら、こうは書けないであろう。これこそが、タットン会「三方よし」の証左である。

約6年ぶりに参加した前回、チャレンジャーさんは格段に上手になっており(あきらかに私よりも!),ボランティアさんは確実に楽しんでた。(実は私、運動が大の苦手なので、かつては苦しんだ時もあったが)時間の経つのが早く感じられた。チャレンジャーさんや他のボランティアさんに、運動の楽しさを教えて頂いたのである。

喜びを共有できる人たちの集まりであるタットン会に、近江商人の「三方よし」を見た。 海津武尚

第81回目 タットン会 8月22日の流れ 於 県立保健福祉大学

- 8:30 ~ 準備
- 9:00 受付開始
- 9:30 ペアになってカード確認・体操、各種目へ
- 10:20 休憩
- 10:35 後半競技~ (試合又は継続回数に挑戦)
- 11:05 片づけ・モップ、感想カード記入(手話コーナー) けがの確認
- 11:35頃 解散



本日の担当者

チーフ・セッティングチェッカー: 山本 (県大生)
 継続受付: 県大生・佐藤
 新規受付・説明: 鈴木・県大生
 全てのサポート: 県立大学学生・事務局メンバー

《次回 2009年度の予定》

82回目 9/26 83回目 10/24
 84回目 11/21or28 85回目 12/19or26
 いずれも、**県立保健福祉大学**です!